

## 胃がん検診（地域）

### 動 向

胃X線検査による胃がん検診受診者数は1994年までは増加傾向にあったが、その後は現在まではほぼ横ばいとなっている。これは、胃X線検査が日常臨床で使用されることが少なくなったことや、読影医が減少していることなどが原因の1つと考えられている。

2015年4月に、国立がん研究センターより有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年度版が公表されたことを受け、厚生労働省においては、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」を平成28年2月4日付で改正し、胃がん検診は、問診に加え、胃部エックス線検査または胃内視鏡検査のいずれかを行うこととし、対象者は50歳以上（当分の間、胃部エックス線検査については40歳代に対し実施可）、受診間隔は2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査については年1回実施可）と定めた。

横浜市ではすでに内視鏡による胃がん検診がモデル事業として行われていたが、平成28年度よりは、本格的に内視鏡による胃がん検診がスタートした。今後は、他の市町村でも内視鏡による胃がん検診を取り入れていくものと思われる。

なお、協会は「神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会」の事務局として、県内の一次検診実施機関が実施する消化器がん検診の精度・技術の向上のために協力している。

### 方法・結果

日本消化器がん検診学会より「新・胃X線撮影法ガイドライン 改訂版（2011）」が発行され、当協会でも、そのガイドラインに基づいて胃X線検診を行っている。

胃がんX線検診受診者数は15,424名で、前年比で2,907名減少した。これは、前年度より3市町村（鎌倉市、大和市、湯河原町）が抜けたためである。要精検者数は977名、要精検率は6.3%であった。これは、前年度の要精検率6.2%とほぼ同等である。精検受診者数は700名、精検受診率は71.6%で、前

年度の精検受診率71.4%とこれも同等であった。がん発見数は21名で、がん発見率は0.136%、陽性反応適中度は2.15%であった。前年度のがん発見率は0.131%、陽性反応適中度は2.12%であり、両方もほぼ同等の数字であった。（表1参照）

日本消化器がん検診学会による平成25年度消化器がん検診全国集計（表2）によると、地域検診における要精検率8.6%、精検受診率79.9%、がん発見率0.150%であった。当協会での成績は、要精検率、精検受診率、がん発見率ともに、やや低くなっていたが、全国集計による陽性的中度を計算すると1.75%となり、当協会のほうがやや上回っていた。

表1 胃がん検診（地域）

年度別要精検率・精検受診率・がん発見率

	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度
受診者数 N	15 424	18 331	18 144	18 337	18 755
要精検者数 X	977	1 132	584	1 779	2 775
要精検率 X/N(%)	6.3	6.2	3.2	9.7	14.8
精検受診者数 Y	700	808	354	1 290	1 954
精検受診率 Y/X(%)	71.6	71.4	60.6	72.5	70.4
がん発見数 Z	21	24	14	23	35
がん発見率 Z/N(%)	0.136	0.131	0.077	0.125	0.187
陽性反応の中度 Z/X(%)	2.15	2.12	2.40	1.29	1.26

表2 地域・職域検診別の検診成績

平成25年度消化器がん検診全国集計より

	地域検診	職域検診	その他	計
検診数	2 522 977	3 689 357	567 736	6 776 770
要精検者数	216 576	209 460	31 444	457 480
要精検率	8.6%	5.7%	5.6%	6.8%
精検受診者数	172 937	91 282	17 232	281 451
精検受診率	79.9%	43.6%	54.8%	61.5%
発見胃癌数	3 796	1 124	296	5 216
発見率	0.150%	0.030%	0.052%	0.077%

関係の集計表は77頁に掲載